

「浦島太郎の話について」
 ツェト クララ
 なぜ亀が浦島太郎に助けられたのに、結局
 家に戻り、家族は自分が一人しかないという
 さびしいものになったのか？ 亀を助けたのは、
 いいことじゃな^{かった}いと言^{うなら}え^ば、その亀^がきつと
 自殺をした^{のだらう}かった。それ^{では}に、浦島太郎は要ら
 ない^{もの}をした^{こと}ことになった。そういう^{こと}わけ
 は^{ない}でし^{よう}う。
 では、この話は何を教えた^{んだらう}か。
 要点は最後に置^{いて}あると思う。
 浦島太郎が箱を開^てけたら、後悔したかしな
 かったか^{は書いていない}。教^{えて}くれな^{かった}。でも、おじ
 いさんにな^るのだが、恋愛の^{ように}、色々な
 素晴らしい嘘の^{ような}経験^をも^{られ}る^{ので}、
 どんな帰結も受^ける^{次第}である。読者はそう
 いうふう^に考^える^{かも}知^れない。それは割^り
 の悪くて、やはり質素に暮^らした^いので、後
 悔すると思^う人は言^{われ}る^{こと}を守^るの^{教訓}
 と^を取^る。開^{けたら}、開^{けた}人の^{所為}だ^{らう}。

開けてはいけないと言われた箱を

責任 ということになる